

成田市生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体第8回会議 議事録概要

1 開催日時

平成30年11月14日（水） 午後2時00分から午後3時55分

2 開催場所

成田市役所 議会棟 執行部控室

3 出席者

（委員）

西田委員、佐藤委員、大木委員、西村委員、宮崎委員、渡邊委員、高木委員、高橋委員、竹能氏（宮下委員代理）、沓掛委員、山根委員、野平委員、北村委員、以上13名

（欠席：小林委員、石井委員、以上2名）

（事務局）

高田福祉部長

三橋介護保険課長、椿高齢者福祉課長

平岡主幹、太田主幹兼地域包括ケア推進係長、渡未副主幹、

社会福祉協議会地域福祉係武田係長

小野生活支援コーディネーター（第1層）

大麻生活支援コーディネーター（第2層）

4 会議次第

1 開会

2 福祉部長あいさつ

3 議題

（1）生活支援コーディネーター活動報告及び買物アンケートの実施状況について

（1）市民フォーラムの開催について

（2）意見交換

4 その他

5 閉会

○開会 介護保険課主幹兼係長

委員皆様の任期（2年）が12月で満了。事務局としては、新年1月から始まる次期任期においても協力を願いたい。

成田市ケアマネジャー連絡会会長の宮下委員は本日欠席だが、選出団体の同連絡会から竹能氏が代理で出席。委員15名中13名が出席により会議は成立した。本日の傍聴者はなし。小林委員、石井委員が欠席。

○福祉部長挨拶

●委員長挨拶

小野生活支援コーディネーターを中心に買い物アンケートを行っており、最終的には 2,000 名を超えると思われる。協議体が主体となって開催する市民フォーラムの計画が出来上がってきた。来年も継続、発展させていけるようなご意見をいただければと思う。

○介護保険課主幹兼係長

配布した席次表に事務局、生活支援コーディネーター、社会福祉協議会の職員を掲載してあるので、ご覧いただき紹介とさせていただく。本日の資料の確認。

●これより委員長が進行

まず始めに、生活支援コーディネーターの活動報告、買い物アンケートの実施状況の報告となるが、先ほど紹介した第 2 層が誕生したということで大麻様から説明いただきたい。

○第 2 層生活支援コーディネーターの説明（大麻生活支援コーディネーター）

自己紹介及び 10 月からの活動状況を報告。今後、地域の活動の場所に通い、地域の良き理解者としてどういったニーズがあるのか、社会資源の調査を行いたい。成田地区は資源に恵まれた場所であるので、資源を把握し、困りごとを吸い上げて、理想の成田地区を描き共有したいと考えている。

●委員

エンディングノートを役所で作って置いているが、知らない方が多い。せっかく作っているのに利用できていない。PR はしないのか。

○生活支援コーディネーター

企業が社会貢献するということどうしても利益誘導に繋がらないかという心配もあるが、住民の求めているニーズであれば、良いかと思う。商品を買うか買わないかは個人の判断だと思う。

○事務局

企業の協力をいただいて印刷代無しで 1,000 部作成している。包括には配布している。大々的に全てのニーズにお応えできる状況ではない。毎年作り足して広報している。

●委員

郷部・美郷台地区連合会というのがある。郷部の区長は出てたか。施設はどこか。

○生活支援コーディネーター

区長は出席していた。施設は美郷台3丁目の「ウィズワン成田」。そこは下が小規模型多機能型ホームになっており、上がサービス付き高齢者住宅になっている。また、本町にある「さわやかリビング成田」からも1階を使ってほしいと言われた。

●委員長

運営推進会議の情報は誰から連絡が来たのか。また、今後そういう情報は第2層のコーディネーターに連絡が入っていくのか。

○生活支援コーディネーター

包括に連絡が入り、参加したいと自ら連絡した。これからは定期的な集まりを持ってよいと思う。地域の座談会、ネットワーク会議もやればよいと思っている。

●委員長

第2層の活動は、まずは成田地区限定で行う予定なのかどうか。

○事務局

第2層のコーディネーターについては、今後、順次活動内容を見てこれから徐々に広げていくというのが市の考えである。

●委員

学校関係のコーディネーターは協議委員会が4、5年前から動いて、私たちはそこから依頼を受けて動いている。これから縦割りから横割りという政策を展開していくのか。

○事務局

生活圏域にある地域包括支援センターの数を細分化して皆さんの利便性をあげる配置をしていく。その中で、第2層のコーディネーターを張り付けて地域で細かく社会資源を見つけて皆さんを結びつけるという働きをしていく。

●委員

縦割りである行政的などところを広げ、地域包括ケアシステムなどの一環で動

いていると考えてよろしいのか。

○事務局

今は介護保険だけで行っているが、この後「我が事・丸ごと」という地域共生社会づくりとなると介護保険だけに留まらない。地域福祉を作っていくとなると、今ある社会福祉課が主管になり、市民協働課等と連携をしていくことになる。

●委員

2層という意味はそういう風にとらえていけば良いのか。

●委員長

2層と言うのは、基本的には中学校単位になる。情報収集の仕方が一番今から構築しなければならないと思っている。情報の取り方とあげ方、大麻コーディネーターのところに集まった情報がどう上がっていき、どう活動に反映され、システムに反映されていくのか。

○生活支援コーディネーター

例えば小さな地域だと、居場所が必要な小学校地域とか、見守り活動が必要とか、見守り見守られる地域が自分たちの望む地域など、色々な形が出てくると思う。地域ごとに話し合いの内容も違って来るかもしれないので細分化していく必要がある。2層の協議体に自然と手伝いたいという人が集まっていたらと思う。

●委員

非常に良いことだが難しいことでもある。期待するのは成果や方向性などを情報として我々に提供していただきたい。

○生活支援コーディネーター

まずは資源の把握、可視化・見える化するために冊子や地域のマップを作っていきたい。

●委員

運営推進会議はだれが主催しているのか。成田地区の社協の会長も参加するのか。

○生活支援コーディネーター

運営推進会議は施設が行っている。民生委員、自治会長は参加しているが地

区社協の会長は参加していなかった。

○事務局

施設の運営推進会議は地域密着型といい、成田市が指定する小規模な施設に関しては運営推進会議の実施が義務付けられている。地域に事業所の活動内容を紹介して、地域と一体として福祉を進めてくださいという地域密着型の理念がある。例えば美郷台なら美郷台地区、もう少し小さい地域で民生委員、区長、学校等があれば声をかけている所もある。ただし、どのように運営推進委員をお願いするかは施設に判断を委ねている。大きな範囲で呼んでいる、例えば美郷台地区、また小ぢんまりした地区、例えば美郷台3丁目だけなど、対応は様々である。

●委員長

第1層、2層が連携を取りながら、今後しっかりと成田市のシステムを作っていくように協力し合いながら進めていければと思う。先程のエンディングノートの説明は、すごく良いものがあることを初めて知りました。

○事務局

企業の協力の中で出来たということで、企業の広告が入っている。1,000部ほど作ったので、皆さんに大量に配ることは今のところ出来ない。先ほど言われた通り、今後、増刷を検討しなければならないが、今のところは1,000部であり大量に配る状況には無い。

●委員長

是非こういう機会ですので活用していただければと思います。情報提供ありがとうございました。

○生活支援コーディネーター活動報告（小野生活支援コーディネーター）

資料に沿って9月から11月活動実績を報告。社会資源の調査、生活支援サービスの啓発普及活動、生活支援サービス（居場所づくり）の担い手の養成、2月13日に開催予定のゴミ出しの講演会について説明。

●委員長

活動報告ありがとうございます。

●委員

中学生のゴミ出しボランティア活動をやるのに難しい問題は、この校長は良いが次の校長はダメだよというようなことが起こる。何回位続けているのか。

○生活支援コーディネーター

昨年度から始めて、参加するお子さんの数も増えていると聞いている。当然木更津市の全部の校長がこのように教育的とは限らないが、せっかく始めた活動なので積み上げていきたいと聞いている。

●委員

社協、民児協とか継続させることに力を入れてやっているが、何代か続けたところの実績を見てみたい。

●委員長

成田市の中学校の先生とかに広報活動はするのか。

○生活支援コーディネーター

木更津の中学校の校長先生が出ていただければ、是非、学校にもお知らせをして、学校に来ていただけると良い話が出来ると思っている。

●委員長

せっかくの機会なので中学の関係者にも是非出席してもらえれば良いのでは。中学校に限らず高校や大学など、私もアピールするので、是非、学校関係者にも広報してもらおう。中学校区だと第2層の協力も木更津ではやられているのか。

○生活支援コーディネーター

この事業が始まった経過は圏域内の親睦会のようなものがあり、包括職員と民生委員と校長が話をして、そこで話が始まり、中学校の単独の活動ではなく、地域ぐるみで活動をされていると聞いている。是非、通常では来ることが難しいはずの校長に来ていただければ、皆さんにも聞いていただける可能性も出てくる。

●委員長

ベンチの設置は、市の方へここにベンチが必要という働きかけがあるか。居場所が出来るとなると公園や大きな集会所のようなベンチも設置しようとなるのは市の事業になるのか。

○事務局

公園なら市の持っている公園、道路については、例えばニュータウンのバス停にベンチやイスを置けないかと議会の中でも話があるが、道幅の関係で置けないとの回答をもらっている。一概にここに欲しい、あそこに欲しいと要望が

あっても、実際は道路管理者の方で置けないという回答が返ってくることが多い。

●委員長

ウォーキングコースなどを設定したいと思うが、休むところが必要となる。例えばこのコースを時速何キロで歩いたら何メッツ位の運動で、こういう健康に良いですよという場を設けても、休むところが無いとなかなか怖くて設定できない。そういう休む場所の設置はここで提案してできるものなのか。

○事務局

提案いただいて確認はしますが、必ずしもご希望に沿う答えは返ってこない。

●委員長

健康器具が置いてある公園があるが、それを上手に活用しようという話が違うところを出ている。

○事務局

健康器具も赤坂公園に置いてあり、指導者を呼んで健康づくりをやるが、雨が降ってできないとなると、今度はインドアでやってほしいという話になる。

●委員長

ベンチが居場所になると、地域が活性化すると思う。

●委員

百歳体操は美郷台地区も入っていると思うが、まるごと元気教室は今年の9月まで美郷台地区会館やっていたが、保健福祉館とボンベルタに移動した。また4月から美郷台会館でやってもらえないか。

○事務局

保健福祉館や赤坂ふれあいセンターは、交通の便もよく集まりやすい。いろいろな地区で開催したいというのが市の考え。場所を移動しながら色々な地区の方に参加してもらいたい。要望もありますので、こちらの方で検討させていただく。

●委員長

百歳体操とは別なのか。

○事務局

百歳体操は住民の方がやりたいと手を挙げていただいたところに市の方が説明、指導に行く。まるごと元気教室は、介護予防の普及啓発事業の位置づけで、教室型の事業として実施している。

●委員長

元気教室で百歳体操をやるという事もあるか。

○事務局

違う事業になるので、プログラムは別である。

●委員

先ほどオンデマンドで目印をつけるという話があったが、たくさんある。300mおきとか500mおきにある。そこで印をつけるとあまりにもたくさんになる。逆に言うとどこでもほとんど止まれるという感覚で案内した方がよいのでは。

○事務局

オンデマンドのバス停は利用者さんの要望に沿って設定している。どこがバス停か利用者以外はわからない。

●委員

百歳体操の定義は。何歳以上から参加できるのか。高齢者だけか。

○事務局

百歳体操は、百歳になっても元気に生活できるように目指したもので、高知市が発祥である。高齢者と呼ばれるのは65歳以上だが、参加は何歳以上という形ではなく、65歳未満でも参加できる。

○買物アンケートの実施状況について（小野生活支援コーディネーター）

説明の前に、日野市のごみ出しの事例を紹介。買物アンケートについて、資料に沿って説明。アンケートの目的、方法、内容、現在までの集計結果を説明。

●委員長

勉強になりました。途中経過の報告ではありましたが、今の時点で気になるところやお聞きしたいところがあれば何う。

●委員

住民が場所を提供するいう場合には、ベンチの設置を市の方でやっていただ

けるのか。

○事務局

私有地であるとか、場所による。

●委員

よくゴミ処理場などは補助してくれる。

○事務局

補助金で自治会の要望として色々なものを行っているが、ベンチというのは今のところない。民間の皆様方の土地であるとなかなか難しく、慎重にならざるを得ない部分はある。

●委員

ごみ処理の集積所は承諾があればすぐやってくれると思うが。

○事務局

ごみの施設は自治会などの申請者側ですべて清掃を請け負うという約束事がある。

●委員長

市が管轄しているようなベンチならば、良い名称をつけて、すぐわかるようなデザインとか、市が推進して事業としてやっていることが分かるようなベンチを見つけると地域の活性化の一つの手段になると思う。東京でやっているように、お達者クラブとか健康クラブの名称をつけて、そういうキャッチーな名前をつけてベンチを普及させるとか。

○生活支援コーディネーター

例えば ベンチのペンキを小学生に塗ってもらって地域ぐるみでベンチに注目するとかそういう動きを作っていけたらいいと思う。

●委員

JR 成田駅西口に置いている明らかに手作り感があるベンチがあるが、あれは何なのか。

○事務局

事業者の所有ではないでしょうか。市の持ち物ではない。

●委員

アンケートのデータは、クロスで出るのか。地域でニュータウンとか成田地区は不便を感じていないとなっているが、それ以外の地区をクロスで見たい。

○生活支援コーディネーター

今回は途中経過ですので全部は出していないが、例えば委員の方々からこういうデータが見たいということであれば、言っていたらと思う。

●委員長

公津地区は買い物に不便を感じていないという人よりも不便を感じている人の方が多い。買い物ツアーがあったら利用したいというところも希望者が多い。結構公津地区は買い物に困っている人が多い。イトーヨーカドーがあって買い物しやすいと思っていた。

●委員

宗吾地区など公津の杜以外の地区もあること、また、公津の杜地区は高齢者が少ないこともあるのではないかな。

○生活支援コーディネーター

地域性が様々であるので、町内会単位くらいの範囲で考えていくことが必要。

●委員長

地区ごとに人数が違うので、パーセントで集計していく。

○社会福祉協議会係長

経過報告のアンケートでは、移送サービスの見直しと書かれているが、私ども社会福祉協議会で行っている移送サービス事業のことをピンポイントで指しているものか。そうでなければ、「移動サービス」とか、「移動サービス手段」と表現を変えてほしい。このままだと、うちの事業で買い物サービスをする協賛体は考えていると言われかねない。

●委員長

社協の団体の方でおそらくこのアンケートの内容は把握しているかと思うが、その時に何か意見は出なかったのか。

○事務局

ここで言う移送サービスというのは、基本的にサービス事業者がやるデイサービスなどの、車を空いてる時間で買い物に使えるように変わるという意味合

いであるかと思う。

●委員長

今後のアンケートの説明では、そこを注意しながら進めていくことを願う。

○事務局

成田市では市民フォーラムを、地域包括ケア講演会の中に含める形で実施できないかと考えている。第1部を講演会、第2部を市民フォーラムとする。

まずは、地域包括ケア講演会について説明する。成田市では平成26年度から毎年市民を対象に地域包括ケアの理解を図り推進するため地域包括ケア講演会を開催している。過去の開催については資料に記載。今年度は、西田先生にご協力いただいて、介護予防をテーマに取り上げる。市からも各地域のなりたいきいき百歳体操の取り組みを紹介し、地域に普及・定着させていくためのPRを行っていききたい。市民フォーラムを地域包括ケア講演会の2部構成にした理由について説明。フォーラムの内容だが、コーディネーターを西田先生にお願いし、パネラーは4名を考えている。民児協会長の佐藤会長、住民主体の取り組みとして三里塚のふれあいテラス代表の小川さん、そして小野生活支援コーディネーター、行政からは高田福祉部長とし、フロアの市民の方々のご意見もいただきながら、共に支え合うということと一緒に考えていく機会にできればというのが市からの提案である。参考として、清瀬市の協議体の取組、市民フォーラムを紹介。

●委員長

清瀬市の活動についてすごくよかったと感心した。成田市の協議体は2年目だが、1年目がここでいう勉強会にあたるものなのかを感じる。市民フォーラムの具体的な案が出ましたので、ご意見等ございましたらお伺いする。広報はどこまでするのか決まっているか。

○事務局

毎年広報なりたに掲載し、関係団体ということで、地域ケア推進会議の団体にもご案内する。

●委員長

成田市在勤や成田市にある会社などは、広報なりたでお知らせしていくと思うが、フォーラムの後のフォローアップを考えていなかったが、今後、繋げるのであれば色々な人が参加して、地域の企業と関われる機会が作れると思う。

○事務局

協議体委員の皆様や生活支援コーディネーターからも、こういう方に参加してもらえたらどうかという提案をしてほしい。

●委員

この会議は市民フォーラムの前に開催するのか。

○事務局

当初の予定では2月ですが、日程については調整させていただきたい。

●委員

「世代を超えた地域の支え合い・助け合い」とは具体的にどのようなことか。

○事務局

地域共生社会の話をしたが、高齢者の方だけという支え合いのあり方ではなく、地域には、障がいを持っている方、生活困窮者、子どもなどいろいろな方が暮らしている。その方たちも含めて地域の人が繋がって助け合う、そういう社会の実現を国が目指している。その第一歩として成田ではどういうふうに繋がっていけば、支え合うことが可能になるのか。例えば、ふれあいテラスという三里塚地区の子供食堂があるが、高齢者が担い手になっている。子供食堂を広げ、高齢者でも気軽に来られるような展開をしている。何かひとつの取り組みから可能性を広げて、市民の皆様とディスカッションをし、考えていく機会にしたい。

●委員長

シンポジウムの内容は私の方で設計図を作って行こうと思う。基本的には自助、共助、公助の話をしなが、登壇いただくシンポジストの方々には、経験や実際の活動報告を中心に話を進めていただいて、講義の中で少し揉んでいくような設計図を書こうと思っている。

●委員

フォーラムの話をしてみたが、各地区の包括でやっている勉強会などと大差がないのではと言われたが、どう違うのか。また、地区社協に呼び掛けしてもらえるのか。

○事務局

地区社協の皆様には、地域ケア推進会議の参画メンバーに入っているので通知する。今回、佐藤会長にもパネラーとしてご登壇していただく。佐藤会長は

民生委員の活動の中で、高齢者の方のご自宅を訪問して声がけをしてもらっている。高齢者にとっても心強い存在であり、民生委員の方は地域の中の組織、自治会や地区社協などの間を繋ぐ役割も期待されている。これからは、地域の中の困りごとを住民の方の協力も得て受け止めるような事ができればと考えている。先日の地域ケア推進会議で地域共生社会の推進をテーマに厚生労働省の方を招いて講演会を開催したが、三重県では、「まるごと相談所」というものが、地域の身近なところに多くあり、ここで相談に乗り、地域包括支援センター、専門職に繋げるといった体制をとっている。これからは住民の方のお力をお借りして、共にみんなで世代を超えて支え合っていくことが大事であるので、今回の市民フォーラムの中で一緒に考えるという形にもっていききたい。地区単位でワークショップを開催しているが、地域に寄り添い身近なところで、問題などニーズをしっかりと拾い上げることも大事である。第1層の協議体は、市全体として必要な仕組みを作っていくことも求められている。

●委員長

今回の市民フォーラムでは協議体の活動報告を中心にと考えている。この内容で企画を進めていきたい。

●委員

各地区には地域特性があり、それぞれ、ばらばらなことをしている。今回のフォーラムでは市としてこれからどうやっていくのか、その働きかけをお願いしたい。

●委員長

市民フォーラムの開催前にこの会議を開催したいと思う。

○閉会 介護保険課主幹兼係長

次回会議は、決り次第、開催通知でお知らせする。